

むきばんだ花だよ!!

2月 6

妻木晚田の2月

松本素子

2月は「ニハ につぱち」と言つて物が売れず、商売の振るわない月とされる。妻木晚田の2月も花もない、実もない、何もない季節、と当初は思つた。ところが、ほんやりではあっても10年も歩いていると、2月は何もない、のではなく、あることに気がつかなかつただけ、ということがわかつってきた。徒然草に「花は盛りに、月は賑なきをのみ見るものかは」とあるように、花もない実もない2月でも見どころはあるのだ。

花もない、寒もない裸木を見上げては、あれつ、この木何の木?、と春や夏なら名前がわかるはずの木の名前がわからなくて愕然とする。愕然は一瞬のことで、まあ春になつたらわかるだろうと素通りしかけると、後ろで「がりん(芽鱗)」だの「らが(裸芽)」だのど耳に入つてくる。冬芽がそれぞれ違う特徴を持つていることがわかるのがこの季節である。当初驚見先生が「冬芽を見てください」と言わされたのはこのことか、どうやくわかる。冬芽を見ると言われても、ただ眺めていただけだった。落語にもそういう話があつた。



コナラの幹



足元には芹が短い丈で出でている。毎年1月の例会はちょうど七草粥の前後で、歩きながら七草の話が出る。今年も「七草を探しに出かけたけど漁わなかった」と誰かが言つていた。「七草に足らざる粥をすりけり」という俳句を見かげたりする。元々元旦も7日も日暦のことであるから1月に見つかなくなるても不思議ではない、と気がついたのは何年か歩いた後のことである。

今年の旧の元旦は2月8日、1月7日は2月14日であったから、その頃になると妻木晚田でも寸足らずではあるがセリやハコベラ、ゴキョウを見つけることができる。今はどこも開発されて野原が少なくなっているが、昔ならこの時期でも丈は短くても粥で食べるくらいは十分に取れただろうと推測する。

セリ
(2009年3月)

ハコベ(ヒヨコグサ)
(2009年3月)

ゴキョウ(ハコグサ)
(2009年3月)

アオモジ(ヒヨコグサ)
(2015年2月)

アオモジ(2015年2月)

コブシ(2015年2月)

葉も花も実もない幹と枝だけであつて木が判別できるようになる日が来るのやら来ないのやら、遙けき望みかなあ、と思いつつ次回もほんやり歩くのである。

万葉集に出てくる芹
ますなお たちは たい
丈夫と思へるものの大刀佩きてかにばの田居に芹子そ摘みける
せぢみくわかののみくわぶ

薛妙観命婦

芹は万葉時代の大好きな食べ物だつたそだ。 2/4



★むきばんだを歩く会★

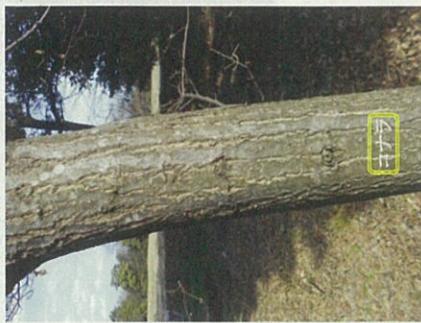
・指導：驚見寛幸先生（鳥取県自然観察指導員）

・毎月第1土曜日午前9時30分～正午

・入会料代 2000円 毎回資料代 300円

・問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだを歩く会」

4/4



植物の
幹

幹